第317回香教組中央委員会開催！

仲間を増やし、子どものための教育を手に入れよう！

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL(087)867-4797
FAX(087)867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円　1月100円
（組合員の購読料は組合費に含む）

香教組ホームページ
http://kakyoso.com/

青年部BBQ
9月21日22日
ほっとステイまんのう
宿泊可

参加費　無料
参加希望の方は、
香教組まで

香教組は、8月25日、サンメッセ香川で第317回中央委員会を開催しました。2019年度人事異動の状況や定期大会以降の教育問題・学校現場の状況などについて旺盛に話し合われました。

はじめに、大久保委員長が、「2019年度4月から、組合員は確実に増えています。教育行政が不安定な今だからこそ組合員を増やし、ほんとうの意味での子どもたちのための教育ができる環境をつくりましょう」とあいさつをしました。

人事異動について

2019年度人事異動の状況が田中書記長から説明されました。県教委は、キャリアステージに基づき、ミドルリーダーの育成を目指した人事異動だとしています。主な動きとしては、主幹教諭・指導教諭の新規採用が増えていること。校種間異動が一定数あること。香教組独自の人事アンケートでは、希望しない転任や育児による部分休業取得への圧力があること等が報告されました。

高松支部からは、「長距離通勤の管理職の配置はいかがなものか。緊急時に遠方を理由に来ない管理職がいる」「そもそも指導教諭の仕事はどういったものなのか？学級担任をしながら、指導はできないのでは？」、「部活動関係の異動が目立つ。そのため、校内に教科のばらつきがある」という現状が報告されました。

三豊支部からは、「中学校で教科の教員が不足しているにもかかわらず、小学校への異動があった」「以前に比べ、校種間異動が増えている」「何か意味があるのか」と疑問が呈されました。

小学校英語科の先行実施による中学校英語教員が小学校へ派遣されることについても多くの意見が出されました。「小学校へ教えに行くことになり、中学校で英語を教えることができず不満」「ただでさえ人手不足なのに、小学校へ行くので、時間割変更ができない。一人当たりの受け持ち時間が増える。中学校も負担が増えている」などの厳しい現状の報告がありました。

教育問題について

2020年度から小学校学習指導要領が、完全実施となります。ICTの時代「society5.0」と謳われ、プログラミング教育も導入されます。高学年の英語科の実施により授業時数が増加。「働き方改革」とはほど遠く、現場の負担は増すばかりです。教育のICT化や全国学力・学習状況調査など、教育への民間産業が次々と参入しています。

教員不足は深刻であり、教員免許の未更新の教員のために臨時免許制度を導入するなど場当たり的な対応しかしていません。香川県でも、すでに4月から教員未配置の学校が出ました。

教職員の給与や待遇も十分ではありません。臨時教職員はさらに深刻です。2020年4月から導入される会計年度任用職員制度についても不透明です。

仲多度支部からは、「多度津町、善通寺市、琴平町給食センターが稼働する。夏休み中に配送の練習をした。学校によって給食の時間を弾力的にできなくなる」との報告がありました。

「栄養教諭が産休に入るが代替が決まっていない。配置されるか心配」

「東かがわ市は、2020年度3校とも小中一貫校になる」

「時間外勤務が多い人に対して校長裁量で代休を取らせている。これは正しい措置なのか」

「勤務時間管理については、教育委員会がどのような指導をしているのか。それを踏まえて交渉したい」

など、さまざまな現状が報告されました。

「学校現場で困っている人に寄り添って対応したところ、組合の大切さがわかり加入につながった」

「青年部主催。ほっとステイまんのうでお泊まりバーベキューをする。組合員・組合員でない人誘い合って語り合う場にしたい」

青年部・ベテラン共に、県内各地で、現場の教職員に働きかけ、困った人に寄り添い、共に学んでいる様子が旺盛に報告されました。

最後に、組合財政や下半期の活動などについての提案があり、中央委員の賛成により可決されました。

教育全国署名のお願い

2019年度も、教育条件整備のため「教育全国署名」へのご協力をお願いします。この署名は30年にわたる継続的な取り組みで、35人以下学級など多くの要求が実現しています。私たちの切実な声を届けるチャンスです。

組合員がお願いに行きます。ぜひ、ご協力ください。

小黒板

ブラジル大使館は、「潜在能力を見ず、日本語が話せないという理由で、特別支援学級に入れるのはブラジル人を軽く見ているのではないか」と日本政府に申し入れをしていると聞いた▼「2019年4月「改正入管法」が施行された。今後、家族帯同が得られる技能へと拡大することが予想される。6月28日、「日本語教育推進法」が交付施行された。国や行政の日本語教育を進める責務などが示されてる▼少し前、日本語がわからない外国籍の子どもたちが、特別支援学級で生き生きと学んでいるという特集番組を見た。特別支援学級の本来の目的とは異なる事態に驚いた▼香川のある小学校。日本語が全く話せない転入生。市教委に人的配置をお願いしたところ「待ってください」との返事。いつまで待つのか。すでに、この学校、4月から加配教員が未配置のまま▼教職員の配置の責任を負うのは、学校現場の管理職ではなく、教育委員会ではないか▼近年、講師の人的確保も現場の管理職の仕事になっていると嘆く声が聞こえる▼結局、この転入生。国語と算数の時間、特別支援学級で取り出し指導をすることになった。そのために、これまで支援学級在籍の子どもたちの支援が減った▼国籍に関わらず、子どもたちには学ぶ権利がある。人的配置がなされない以上、当面は現場での対応は仕方ないが、早急な制度の確立を求める。「待ったなし」だ！

どうなっているの？

学ぶことは力 学ぶことは優しさ

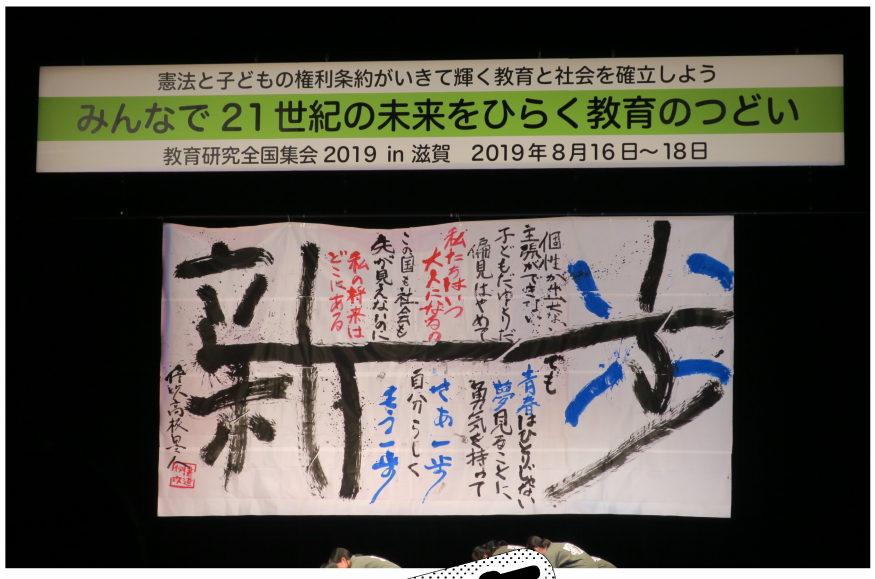
教育のつどい２０１９in滋賀で大いに学ぶ

子どもの命を守ること～子どもの人権・人間の尊厳～

「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい２０１９in滋賀」が、８月16日～18日、滋賀県内で開催されました。全国から教職員・保護者・市民がつどい、語り、学び合いました。香教組からも、６名（レポーター３名を含む）が参加しました。全体会には１２００人が参加。現地企画では、高校生が書道パフォーマンスと演劇を披露しました。

実行委員会の梅原利夫代表委員（和光大学）は、子どもの虐待死事件や自殺率の増加に触れ、「人間が生きづらい社会の縮図として、子どもの命と尊厳がないがしろにされている」とのべ、子どもの権利条約に基づく教育条件の整備を強調しました。現地実行委員会の福井雅英委員長（滋賀県立大学）は、「侵略戦争と植民地支配の深い反省に立って平和と真実にを貫く日本と教育にしたい」と訴えました。

シンポジウムでは、元ソーシャルワーカーで名寄市立大学専任講師善基祐正さんが、「不登校の背景に虐待などの問題がある。子どものSOSに気づくことができるかが課題」と指摘。一人ひとりの生活状況や成育歴を捉える重要性を訴えました。早稲田大学名誉教授増田均さんは、「親自身が、自己責任や競争教育に追い込まれ、貧困の中で子育てをしている」とし、「複眼的な子育ての視点で見ることが必要だ」と強調しました。



参加者の声

第２分科会　外国語教育

レポーター　入倉　健乗

教員生活最終の「教育のつどい」

久しぶりに「外国語教育」で、教育のつどいに参加した。以前に参加した時よりは、レポート内容もより多岐に渡り、私は小学校英語教育の現状についてレポートをした。北九州からは、小学校英語専科教員の取り組みが報告され、英語専科の存在に驚かされた。論点になったのは、小学校の英語教育と中学校の英語教育をどうリンクさせていくかであった。同時に、多くの小学校の先生方が授業について不安に思い心配している事なども、報告された。

「全国教研」の頃から参加しているが、参加するたびにいつも自分がリセットされ、「また頑張るか」という気持ちになる。今年も来年３月の退職までのエネルギーを充填してもらった。

全国の実践に気持ちを新たにするのも良いが、なんと言っても開催地での観光がいい。今年は琵琶湖巡りの若者グループに同乗させてもらい、彦根城に行くことができた。そして、日本の食べ物のなかではトップレベルの臭さを誇る「鮒寿司」に、ついに出会うことになった。だれも怖がって箸をつけようとしないが、思い切って食したオレンジ色に輝く子持ちの鮒寿司（子持ちのものが最高とされるらしい）、その臭さは最強であった。

教員生活最終、いや最臭となる「教育のつどい」であった。

特設分科会①「道徳教育」のあり方を考える

全教青年部　常任委員　佐野　裕也

教師の多忙化、臨時講師の不足など教育業界は、世間からの注目をあびている。中でも、「道徳の教科化」は、「先生、今日もいいことを言えばいいんやろ」と建前と本音を使い分ける子どもを育ててしまっている。また、教科書においては、「かぼちゃのつる」「星野君のホームラン」「お母さんの請求書」など特定の価値を項目に照らし合わせ、子どもに価値を押し付けようとする問題が浮かび上がっている。そうした、子どもたちの発達や人格形成にとっての、道徳的な問題について考えたり実践したりすることの積極的な意義について論議され、多忙化の中でも教材研究をしっかりと行い、一人ひとりの意見が尊重される道徳の時間のあり方を考えていかなければならないと感じた教育のつどいだった。

第２１分科会　教育条件の整備

レポーター　井上　輝

今回、教育のつどいに参加して思ったことは、自分が何も組合のことを知らないなと思いました。香川県の夏休み短縮問題では多くの方から香川の実情はおかしいと言っていただけました。このことを近く交渉に参加して伝えていこうと思いました。